

PHANTOM AI
週間ビットコイン予報
ICOプロジェクト

ファントムエーアイ株式会社

初 版 : 2017/10/01

第二版 : 2017/10/12

目次

| | |
|---|----|
| Abstract 概要 | 5 |
| Objectives ICOの目的 | 9 |
| ICOとは | 9 |
| Underlying Technology Phantom AIエンジン | 10 |
| コンセプト | 10 |
| 構造 | 11 |
| Phantom AI週間株価予報のトライアル利用 | 12 |
| 既知の弱点 | 12 |
| 統計的考察 | 13 |
| AIと時系列予測 | 13 |
| Product Details Phantom AI週間ビットコイン予報 | 14 |
| コンセプト | 14 |
| 開発プロセス及び進捗報告 | 15 |
| アクセス方法 | 15 |
| 既知の弱点 | 16 |
| PAI Token Platform PAIトークンプラットフォーム | 17 |
| 概要 | 17 |
| 非中央集権主義 | 17 |
| 価値の源泉 | 18 |
| アルゴリズム報奨金制度 | 18 |
| PAI Token Technical Details PAIトークンについて | 20 |

| | |
|----------------------------------|----|
| 技術的概要..... | 20 |
| バグ報奨金制度 | 21 |
| Token Sales 資金調達概要 | 22 |
| 発行条件 | 23 |
| 価格不保証..... | 23 |
| Use of Proceeds 資金使途..... | 24 |
| Step1 調達額US\$3M相当額までの場合..... | 24 |
| Step2 調達額US\$10M相当額までの場合..... | 24 |
| Step3 調達額US\$10M相当額以上の場合..... | 25 |
| Roadmap ロードマップ | 26 |
| Benefits トークン保有のメリット | 28 |
| 「Phantom AI 週間株価予報」のトライアル利用..... | 28 |
| 「Phantom AI 週間ビットコイン予報」の利用 | 28 |
| 他予測エンジンの利用 | 28 |
| PAI Token Issuer トークン発行会社 | 29 |
| ファントムエーアイ株式会社及びその子会社について..... | 29 |
| 財産ネット株式会社との関係..... | 29 |
| Team チームメンバー | 30 |
| Important Notice 重要事項 | 35 |
| 概要 | 35 |
| PAIトークンの購入者 | 35 |
| リスク | 36 |
| 免責等..... | 37 |

| | |
|----------------------------|----|
| 購入者による表明保証 | 37 |
| トークンセールの内容についてのアップデート..... | 39 |
| マーケット情報・ 産業情報 | 39 |

ABSTRACT

概要

What is this ICO for

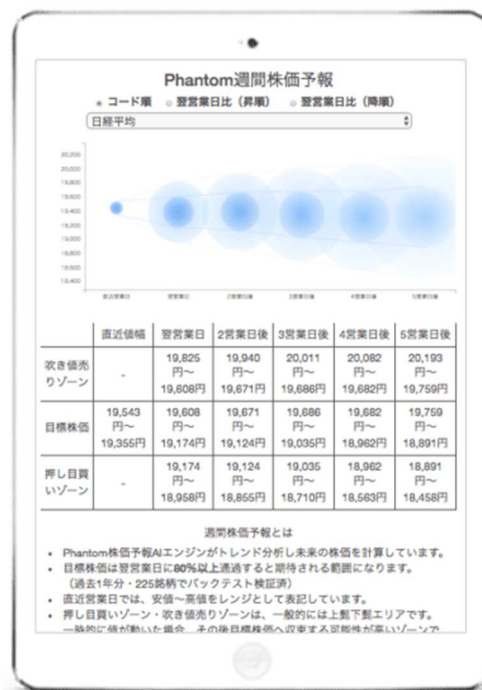
目的

「Phantom AI 週間ビットコイン予報」ICOプロジェクトへのご興味をいただきましてありがとうございます。本プロジェクトは、当社の兄弟会社である財産ネット社が開発してきたPhantom AI予測エンジンを仮想通貨の価格の予測に適用することを目指すものであり、その開発資金等を調達するためにPAIトークンを発行するICOになります。

Why we can

プロジェクト実行能力

テレビ・新聞等で報道いただいておりますように、当社の兄弟会社である財産ネット株式会社には、既にPhantom AI予測エンジンを活用して「Phantom AI週間株価予報」を開発した実績がございます。当社は、この技術及びノウハウを活用して「Phantom AI 週間ビットコイン予報」を開発することを目指します。



なお、一般的なICOプロジェクトでは、「詐欺案件ではないか?」「本当に開発能力があるのか?」「開発出来たとして誰が使う/広まるのか?」といった不安や懸念がしばしば生じています。この点を考慮し、当プロジェクトでは、法令の認める範囲内において、一定の条件を満たすPAIトークンの保有者に対し「Phantom AI週間株価予報」へのアクセス権を無償で付与する方向で調整をしております。

How we will proceed

開発の方向性

Phantom AI予測エンジンはトレンドを予測し、ベースとなる将来予測を算出します。さらに、Phase2以降の開発について仮想通貨であるからこそ取得可能な各ウォレットの取引情報を加味することでより精度の高い予測エンジンの完成を目指します。

- (1) Phantom AIエンジンを利用した「Phantom AI 週間ビットコイン予報」のリリース
- (2) PAIトークンが取得する仮想通貨取引サンプリングデータの利用
- (3) 全仮想通貨取引データの取得と利用
- (4) 株為替コモディティ等の取引データの取得と利用
- (5) 仮想通貨取引データの解放と他エンジンのプラットフォーム掲載



How to buy

ICO 参加方法

2017年10月21日よりプリセールスが開始されます。10月14日からは事前登録も開始されますので、仮想通貨取引事業者にて口座開設し7ETH(約20万円)以上をご入金の上、販売開始をお待ち下さい。

プリセールスではクラウドセールよりも低い価格でPAIトークンを販売します。条件詳細はトークン詳細をご覧ください。

When services get available

サービス開始予定

Phase1の開発は2018年Q1を予定しており、「Phantom AI週間株価予報」のノウハウを利用した最初の「Phantom AI 週間ビットコイン予報」のリリースを予定しています。当ICOプロジェクトにご参画いただいた一定数量以上のトークン保有者に対して、無償でのアクセス権を付与いたします。

以後の開発スケジュールについては、「Phantom AI 週間ビットコイン予報」のセクションをご覧ください。

Who we are and where we are located

当社及び財産ネット社について

当社及び財産ネット社は共に東京にオフィスをもつAI x Fintechのベンチャー企業になります。週間株価予報の他、株価の変動時間を予想するエンジンなど、機関投資家向けのエンジンを多く作っております。

For whom

本プロジェクト

投資意欲が高く、明確なプロダクトによるICOへのご参加を希望される方に適しています。

- (1) トークン保有者は週間ビットコイン予報サービスを利用できます
- (2) トークン保有者が増えれば増えるほど予測精度が上がるのでトークン保有者にとってメリットとなります
- (3) Phase 4 以降は取引データの解放により様々な予測エンジンが開発され、トークン保有者としても様々な予測エンジンにアクセスすることができるようになることが期待されます

ICO調達資金が予測精度の向上というサービス利用上の価値として還元されるだけでなく、トークンの保有理由に繋がるように設計されており、限定数のトークン保有者のみがアクセス可能なサービスをもつプレミアムなトークンとして発展することを目指します。

And more...

Phase4以降では、収集した仮想通貨取引情報を分析基礎データとしてマージしていきます。為替やオルタナ資産の取引情報も加味する事で当社エンジンの予測精度のさらなる向上を目指すと同時に、この情報はPAIトークンを使って予測エンジンを公開したい全ての数学者・統計学者へ公開を予定します。予測アイデアをお金に変える手段を持たなかった統計学者や、基礎データ収集に詰まっていた金融工学の学生に対して、インプットとしてのデータの解放と、アウトプットとしての予測を利用したい投資家へのリーチを公開することでプラットフォームとしての価値向上を実現します。

OBJECTIVES

ICOの目的

財産ネット社が開発してきた「Phantom AI週間株価予報」を構成するPhantom AI予測エンジンを、仮想通貨の価格の予測に適用するのが今回のプロジェクトになります。

2017年春の発表以降、「Phantom AI週間株価予報」に対する一般投資家からのご興味・お問い合わせが多かったこのエンジンを「Phantom AI 週間ビットコイン予報」ICOプロジェクトとして公開することで、ご要望にお応えすることが出来るようになりました。

「Phantom AI 週間ビットコイン予報」では、仮想通貨であるがゆえに取得可能な各投資家のウォレット情報を付加することで予測精度を高めることを期待して開発を予定しています。そのための研究開発費や人件費等の必要経費を、プロジェクトにご参画いただいた皆様の資金にて拠出を予定しています。

さらに集めた分析用のビッグデータはPAIトークンをプラットフォームとして利用する、一般の研究者へ提供いたします。これによりPAIトークンは予測エンジン群のプラットフォームコインとして機能することを目指します。

ICOとは

ICOに関する一般的な疑問については、FAQ内にご用意しております。

<https://phantom-ai.com/faq/>

ご一読いただければと思います。

UNDERLYING TECHNOLOGY

PHANTOM AIエンジン

コンセプト

「Phantom AI週間ビットコイン予報」の技術的基盤となるPhantom AI予測エンジンの基本的な考え方は、トレンドを読むということです。財産ネット社が提供する「Phantom AI週間株価予報」も、同じ考え方に基づく予測エンジンを活用して開発されています。

例えば、各企業には年度単位の動きがあり同様に季節単位の動きがあります。多くの会社では3月決算ですが、3月が近づくと無理にでも売り上げを作りに行くことがあり得ます。また多くの大企業では4月が異動の時期に当たります。つまり多くの新規事業は4月がスタートラインとなり、その前後でポジティブな発表が相次ぎます。

国単位で捉えてもこれは同じことが言え、年末・年度末には公共事業が多く建設業を中心に潤う構造です。また盆暮れは多くの工場が止まるため、盆暮れの前後で製造業の在庫は変化します。生産・在庫・売上等、企業活動を評価するどのファクターから見ても、季節要因・年度要因というものが、非常に大きな構成要素となっています。

これら企業ごとの周期的な動きを銘柄単位で分析・分割して捉えることで、Phantom AI週間株価予報は実現されています。広告業界を例にとると、毎年2月・8月は売上が低下します。つまり2月・8月を含む四半期売上は、毎年他の四半期よりも弱含むと言う事が、業界の特性として前もってわかります。そしてその四半期決算の発表月には落胆することが必ず毎年あると言うことです。

上記にてお分かりの通り、これらの事象は機関投資家にとって当然の因果関係に過ぎず、ある意味では当たり前のことです。従ってプロのトレーダーであれば、当然これらの情報は頭に入れており、情報を整理し考慮しながら自身のポジションを決めてトレードを行っています。

しかしながら一般の方が同じことを実行できているかというと、なかなか難しいのが現状ではないでしょうか。多くの方にとって企業の特性を読む・チャートを読むという作業自体が難しいものです。今日を基準に短期的にあるいは中期的に見たとき、回復期に差し掛かったかどうか判断は難しいと思います。上がり調子なのか下がり調子なのかといった判断材料が欲しいと思う投資家に応えたのが、Phantom AI予測エンジンを用いたPhantom AI週間株価予報になります。

構造

実際のPhantom AI週間株価予報の仕組みはここで記述させていただくよりもかなり複雑になっていますが、ここではその概要をご説明します。

まずは

- ・ 統計処理によってブラウン運動（ノイズ）を取り除くエンジン

がデータの下処理をします。その上で

- ・ 1年周期の変動をとらえるエンジン

にて周期性を生成します。同様に

- ・ 他の周期的な動きをとらえるエンジン

がその他の説明変数を生成します。

更に、上記とは別に

- ・ 直近の動きを捉えるエンジン

を別途用意し、

- ・ 全体を取捨選択しマージするためのエンジン

がまた別に存在します。

端的に言うと

- ・ 統計的な予測エンジン
- ・ AIによる予測エンジン
- ・ それらをブレンドすることで全体精度を向上させるエンジン

が存在しています。

AIに未来を100%予測する能力はまだありません。しかしながら既存の統計手法のみ、あるいは既存のチャート手法のみを用いるよりは、精度の高い予測を行うことは可能と当社では考えています。そしてこれを形にしたのがファントムAI週間株価予報になります。

ボリンジャーバンドを用いて翌日株価の参考とする場合、中心から $\pm 1\sigma$ （標準偏差）範囲内には約68%の株価が入ってくることが期待され、既に多くの投資家の指標の一つとして利用されています。Phantom AI週間株価予報の場合、 $\pm 1\sigma$ （標準偏差）範囲内に翌日株価は80%以上入っていることが過去の株価によって検証されています。Phantom AI週間株価予報の統計的考察については次項をご覧ください。

例えば、今週緩やかな株価の下落からリバウンドが予測される場合、今日慌てて買わずとも明日の様子を見てからでも良いかなという選択肢が出来ます。もちろん明日すぐに値上がりしてしまうケースもありますが、統計的には様子を見ることで、値下がりリスクを取らないということが可能になります。

PHANTOM AI週間株価予報のトライアル利用

「Phantom AI 週間ビットコイン予報」の利用イメージをご体験いただくため、PAIトークンを一定数量以上保有されている皆様には、法令の認める範囲内において、財産ネット株式会社の提供する「Phantom AI週間株価予報」のトライアル利用を可能とする方向で調整を進めております。

Phantom AI週間株価予報のトライアル利用が実現した場合には、トークンを保管されているウォレットアドレスを利用して、専用サイトよりログインいただくことで、「Phantom AI週間株価予報」へのアクセスが可能となります。

既知の弱点

未発現の事象に対応不可能であること

トレンドを読むという構造上、トレンドに表れていない事象を前もって察知する能力はありません。例えば「いつ北朝鮮がミサイルを発射するのか」といったことは市場関係者でも分からないのと同様に、本エンジンのインプットとして織り込まれることはありません。

ただし、「北朝鮮にICBM発射の兆候があり、明朝に発射の様様」と伝わっている場合、この情報は市場価格に織り込まれるため、本エンジンとしてもインプットされます。

統計的考察

当エンジンの統計的考察については下記リンクをご確認下さい。

<https://phantom-ai.com/technology/>

AIと時系列予測

AIによる時系列予測については失敗事例が多く、困難と捉えられていることも少なくありません。実際多くの金融機関にてAIを用いた予測エンジンが開発され、学習結果がフィットするにもかかわらず、現実の予測性能が悪いという事例が見受けられます。これは多くの場合、株価や為替といった時系列データの大部分の区間がランダムウォークで構成されているにもかかわらず、適切なノイズ除去が行われていないことに起因しています。

一般的なAIアプローチによる時系列予測及び陥りやすい失敗事例等についてはFintech Summit 2017のワークショップ「AI予測の最適利用と実務」でご紹介しています。

<https://www.slideshare.net/godzgodz/20170920finsumworkshopzaisannet>

PRODUCT DETAILS

PHANTOM AI週間ビットコイン予報

コンセプト

「Phantom AI 週間ビットコイン予報」では、前項でご紹介した週間株価予報のノウハウを利用し、さらに質の高い予測を目指します。具体的には、仮想通貨取引であれば取得可能な各投資家のウォレット情報を付加することで、予測精度を高めるための開発を予定しています。そのための研究開発費や人件費等の必要経費を、プロジェクトにご参画いただいた皆様からいただいた資金にてまかなうことを予定しています。

今回調達した資金を用いて、まず仮想通貨取引市場における予測精度の向上開発を行います。仮想通貨の場合、株取引や為替取引と異なり、どのウォレットからどのような取引が行われたかを第三者の目から観測する事が可能です。このため、どのウォレットが影響度が大きいのか、どのウォレットがFirst MoverでどのウォレットがFollowerなのかといった情報を整理することが可能です。まず当社トークン保有者とその「Phantom AI 週間ビットコイン予報」利用傾向をモニタリングすることで、全仮想通貨取引者のサンプリングデータとして利用します。

そして、その次にブロックチェーンネットワーク上にある全ての取引データの分析を試みる予定です。これは株式で言うところの全ティックデータの分析と同等であり、ティックにIDが付いた状態で分析が可能になっています。

株でも為替でもほとんどのアセットの取引で知られている通り、大型の投資家の動きは小型の投資家の動きよりもマーケットインパクトを与えます。また投資家の中には環境変化にいち早く反応するファーストムーバータイプと、市場の動きをある程度観測してから反応するフォロワータイプがいます。つまりウォレットアドレスごとにその性質を記録することでこういったタイプの投資家がどのような投資行動を行っているか明らかにすることが可能になると考えています。これは株の世界では監督官庁を除きモニターできなかったことであり、仮想通貨ならではの取引透明性がもたらした情報と言えます。

財産ネット社では株式の全取引データ、ティックデータを分析することで異常な挙動を察知することが可能になるエンジンを開発しています。このノウハウを利用することでビットコイン市場でも異常な挙動の検知、トレーダーが感じる市場のざわつきを捉えることが可能となる可能性があります。

開発プロセス及び進捗報告

クラウドセールス終了後の2018年より開発を開始いたします。

研究開発プロセスの進捗は、PAIトークン保有者専用サイトにて1か月に一回を目途としてご報告を予定しています。

Phase1 Phantom AI 予測エンジンの「Phantom AI 週間ビットコイン予報」への適用

Phase1の開発終了時期は2018年Q1を予定しております。

Phase2 (PAI) トークン保有者の仮想通貨取引情報の「Phantom AI 週間ビットコイン予報」への適用

Phase2の開発終了時期は2018年Q2を予定しております。

Phase3 トークン非保有者の仮想通貨取引情報の「Phantom AI 週間ビットコイン予報」への適用

Phase3の開発終了時期は2018年Q4を予定しております。

Phase4 「インデックス」「為替」「金」「原油」等のアセットクラスの取引価格情報の「Phantom AI 週間ビットコイン予報」への適用及び、PAIトークンをプラットフォームとして利用する他予測エンジンへのプラットフォーム解放

Phase4の開発終了時期は2019年以降を予定しております。

アクセス方法

上記研究開発Phase1が完了後、トークン保有者のためのアクセスサイトをオープンいたします。PAIトークンを一定数量以上保有されている皆様には、トークンを保管されているウォレットアドレスを利用して専用サイトよりログインいただくことで、「Phantom AI週間ビットコイン予報」へのアクセスが可能となります。

詳細なアクセス方法は、2017年12月に予定されているトークン配布後に、メールにてご連絡いたします。

既知の弱点

未発現の事象への対応不可能

トレンドを読むという構造上、トレンドに表れていない事象を前もって察知する能力はありません。例えば「いつ北朝鮮がミサイルを発射するのか」といったことは市場関係者でも分からないのと同様に、本エンジンのインプットとして織り込まれることはありません。

ただし、「北朝鮮にICBM発射の兆候があり、明朝に発射の模様」と伝わっている場合、この情報は市場価格に織り込まれるため、本エンジンとしてもインプットされます。

概要

PAIトークンは潜水艦のソナーを世界中の海に配置するのと同じような役割を果たします。

大きな魚小さな魚がジャンプすることによって水面が動くように、大きな投資家小さな投資家が投資行動を起こすことによって起きる価格変動を捉えるツールとなります。

本プロジェクトにご参画いただく、PAIトークン購入者のペルソナは、一定以上の投資資産をお持ちで株式等の既存のアセットクラスへの投資にも積極的な方、つまり大型投資家でファーストムーバーの比率が高いということを想定しています。ご参画の皆さまがいつ・どのようなタイミングでPhantom AI週間ビットコイン予報をご覧になり、その後ビットコイン価格がどのように変動するかを分析することで、PAIトークンを通してサンプリングデータが取得・蓄積されます。

このビッグデータを公開することで、他の研究者の予測プログラムを載せられる、世界中に知の結晶を集めるPFとして、発展して行くことが期待されます。

単純な例として「5分足チャートでRSIを利用し、30%でエントリーして70%でEXITする」という戦略を考えた場合、プロのトレーダーにとっては既に参照しているインジケーターの一つに過ぎませんが、RSIを利用されていない方にとっては意味があります。

トークン保有者がいくつもの優秀なアルゴリズムを利用することで、参考となる情報を増やすことが可能になります。

非中央集権主義

トークンがもたらす情報は全体トレンド予測へのインプットとなり、集めたビッグデータは、PAIトークンプラットフォームとして利用するアルゴリズム開発者のインプットデータとなります。これが当社トークンのもたらす非中央集権主義のネットワーク効果です。

Phase2以降においてブロックチェーンネットワーク上にある全ての取引データの分析が可能となった時、PAIトークンが集めてきたビッグデータが持つ情報の価値はさらに高まり、Phase4以降でそのデータを利用した外部予測エンジンが当プラットフォームへ掲載されてくることで、ブロックチェーンネットワーク自体の非中央集権主義を有効活用する画期的なトークンとなることが期待されます。

価値の源泉

一定量以上のPAIトークン保有者には「Phantom AI週間ビットコイン予報」へのアクセス権を設定します。したがって価値の源泉は「Phantom AI週間ビットコイン予報」の需要になります。プロジェクトが成功し「Phantom AI週間ビットコイン予報」の精度が向上した場合、より多くの方がこの情報を求めることで需要が増え、トークンの価値が向上すると期待されます。逆に開発に失敗した場合や他のインジケータの出現等によって需要が失われた場合、トークンの価値は毀損すると考えられます。

そしてPAIトークンの価値は、当社が開発するエンジンに止まりません。Phase4以降では、世界中の数学者・統計学者が、このプラットフォームを使って自身の予測エンジンを公開出来るようにシステム拡張を予定しています。

世界には沢山の予測エンジンのアイデアが眠っておりますが、研究者とユーザーのマッチングが出来ておりません。

- ・ 分析のベースとなる取引情報の集積とビッグデータ公開
- ・ エンジンを利用したい投資家集団へのリーチ

をPAIトークンのプラットフォームを通して可能にします。

当社の「Phantom AI 週間ビットコイン予報」を基準として、より多くのユーザーにより評価され、より多く使われることになるエンジンの開発者にはPAIトークンが発行され、研究の対価が得られるようにエコノミーが作られます。

今回、本トークンは発行量を絞ることで当初発行量では最大1万人までしかアクセス権が付与されない形となっています。この情報の希少性によってトークンの価値を一定に保つことを期待した設計になります。

アルゴリズム報奨金制度

当サービスで公開される予測エンジンの他に、お客様よりご提案頂いた予測アルゴリズムが採用された場合には、PAIトークンあるいはPAIトークンに裏付されたトークンを新たに発行し付与させて頂くことがございます。詳細につきましてはPhase2以降順次リリース致します。

PAI TOKEN TECHNICAL DETAILS

PAIトークンについて

技術的概要

Phantom AIトークンは、パブリックなEthereumブロックチェーン上のERC20互換トークンです。

PAIトークンは、普段お使いのERC20に対応したウォレットに入出金することが可能であり、ERC20スタンダードに準拠しているため、既存のEthereumエコシステムと大変相性が良く、本サービスにおける通常利用のみならず将来的には売買可能なトークンとなり得ます。

本トークンの構造は以下の通りです。

トークン名: Phantom AI Token

シンボル: PAI

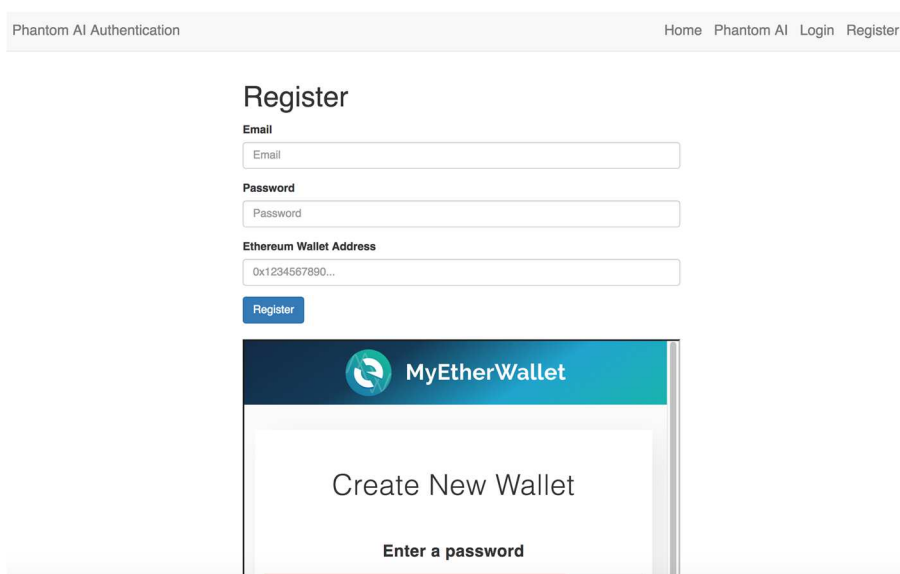
精度: 18桁

仕組みにつきましては、通常のERC20準拠のトークンと同様、トークンの転送は自身から他者へ、あるいはAさんからBさんへ等へ転送が可能であり、送受信者アドレスが有効であると検証された場合にのみトランザクションが実行され、無効である場合には実行されません。AさんからBさんへ送金といった場合のトランザクションは下記のような流れで実施されます。送金分を「V」とすると、

- (1) AさんのBさんに対する引当金をVとする
- (2) 承認イベントの実行
- (3) AさんのBさんに対する引当金からVを差し引く
- (4) Aさんの残高からVを差し引く
- (5) Bさんの残高にVを加える
- (6) AさんからBさんへVの送金イベントを実行
- (7) AさんのBさんに対する引当金を0とする
- (8) 承認イベントの実行

プリセールおよびクラウドセールのコントラクトアドレスにつきましては、トークンの発行量その他条件の変更により異なる場合がございますが、常に公式ページをご参照ください。(当社を装ったコントラクトアドレスの通知は破棄して頂くようお願い申し上げます。)

本サービス上でのトークンの利用方法につきましては、アカウント登録時または初回ログイン時にMyEtherWalletにて新規のEthereumアドレスを作成して頂き、そちらに1,000 PAI以上デポジットして頂くことで本サービスを利用可能となります。ウォレット作成時に生成される秘密鍵等は厳重に保管ください。(下図は開発段階のものであり、プロダクト版では変更される可能性がございます。)



The image shows two screenshots. The top one is a web browser page titled 'Phantom AI Authentication' with a navigation bar containing 'Home', 'Phantom AI', 'Login', and 'Register'. The main content is a 'Register' form with three input fields: 'Email', 'Password', and 'Ethereum Wallet Address'. Below the fields is a blue 'Register' button. The bottom screenshot shows the MyEtherWallet interface with the heading 'Create New Wallet' and a prompt to 'Enter a password'.

基本的に不正利用についてのインセンティブは少ないものと想定されますが、トークン発行時その他の重要なイベントはウォッチされており、万が一不正が行われるとみなされた場合には当該アカウントはブラックリストに入り以降のトランザクション実行を不可とさせて頂く可能性がございます。不正利用にともなうアカウント停止等による損失につきましては補償の対象外となりますのでご了承ください。

バグ報奨金制度

PAIトークンにはバグが存在する可能性がございます。バグ発見時には速やかに当社にご連絡いただくことで発行済トークンの0.1%をリザーブより報奨金として差し上げます。

TOKEN SALES

資金調達概要

プリセールス及びクラウドセールスにおいて、PAI 1000Tokenが一口となり、約200,000円（プリセールス時）からご参画いただけます。

発行概要は下記になります。発行数量等は予定となり、需給によって、売出調整用のトークンも販売する可能性があります。本ICOプロジェクトには最低調達金額はございません。

| | トークン発行量 | 販売単価 | 備考 |
|-------------|-------------------------|-----------------|--------------|
| Pre-Sales | 500,000Token (予定) | 1000Token@8ETH | |
| | | 1000Token@7ETH | 事前登録者特典 |
| Crowd-Sales | 2,000,000Token (予定) | 1000Token@10ETH | |
| | | 1000Token@9ETH | 事前登録者特典 |
| 売出調整用 | 2,000,000Token (予定) | 未定 | |
| 発行リザーブ | 5,500,000Token (予定) | | インセンティブ配布を含む |
| 全発行数量Cap | 10,000,000Token (予定) | | |

発行条件

- ・ 当社「週間ビットコイン予報」へのアクセス権は1000Token以上の保有者へ付与いたします
- ・ プリセールス及びクラウドセールスでの売り出し数量は、需給により変化させる可能性があります。
- ・ 発行会社によるTokenの買い戻しは行いません。
- ・ プリセールス及びクラウドセールスで調達した資金は開発費・マーケティング費等に充当しリザーブいたしません。

価格不保証

当社は発行後トークンの買い戻しをいたしません。

しかしながら当社のトークンは一部の限られたお客様に対し週間ビットコイン予報を提供いたします。

今回調達する資金を用いて開発を進めることで予報精度が上がり、精度が上がるにつれ、この情報に接したいお客様が増えることによりトークンの需要が増えると期待されます。

USE OF PROCEEDS

資金使途

本ICOプロジェクトには最低調達金額はございません。

下記GS&Aには子会社を含む法人設立・維持管理に必要な販管費、税金、弁護士報酬等の費用が含まれます。
またR&Dコストにはサーバー代やAI研究用のマシン代等が含まれます。

STEP1 調達額US\$3M相当額までの場合

全額が本プロジェクト経費の支払い、法人としてのGS&A、及び「Phantom AI週間ビットコイン予報」Phase1の開発費として使用されます。

プロジェクト関係費

調達コスト 20% (予定)

プロモーション費用 20% (予定)

GS&A 20% (予定)

R&D 40% (予定)

STEP2 調達額US\$10M相当額までの場合

Step1での支払いに加えて、「Phantom AI週間ビットコイン予報」のPhase2及びPhase3開発費として使用されます。

GS&A 20% (予定)

R&D 80% (予定)

STEP3 調達額US\$10M相当額以上の場合

US\$10M以上が調達された場合、Step1, 2への費用支払い後、より長期的な研究が必要な「Phantom AI週間ビットコイン予報」のPhase4の研究開発費として使用されます。

GS&A 20% (予定)

R&D 40% (予定)

PF R&D 40% (予定)

ROADMAP

ロードマップ

2017/10/14 プリセールス用申込開始

この時点での申込者に対しては1000Token@7ETHでの販売を予定

2017/10/21 プリセールス開始

この時点での申込者に対しては1000Token@8ETHでの販売を予定

販売数量は500,000Token (最大500名) を予定

2017/11/18 クラウドセールス用申込開始

この時点での申込者に対しては1000Token@9ETHでの販売を予定

2017/12/01 クラウドセールス開始

この時点での申込者に対しては1000Token@10ETHでの販売を予定

販売数量は2,000,000Token (最大2000名) を予定

2017/12/中旬 トークン発行法人 (海外法人) 登記完了

2017/12/24 トークン配布

2018/Q1 Phase1開発

「Phantom AI 週間株価予報」のエンジン適用

Phase1の開発終了時期は2018年Q1を予定しております。

2018/Q2 Phase2開発 (予定)

PAIトークン保有情報の「Phantom AI 週間ビットコイン予報」への適用

Phase2の開発終了時期は2018年Q2を予定しております。

2018/Q3-4 Phase3開発 (予定)

トークン非所有者の仮想通貨取引情報の「Phantom AI 週間ビットコイン予報」への適用

Phase3の開発終了時期は2018年Q4を予定しております。

2019 Phase4開発 (予定)

その他アセットクラスの取引情報の「Phantom AI 週間ビットコイン予報」への適用

Phase4の開発終了時期は2019年以降を予定しております。

BENEFITS

トークン保有のメリット

「PHANTOM AI 週間株価予報」のトライアル利用

前述のとおり、PAIトークン発行後の2017年末より、法令の認める範囲内で、一定数量以上のトークン保有者に対して、無償で「Phantom AI 週間株価予報」の利用を頂ける方向で調整しております。

「PHANTOM AI 週間ビットコイン予報」の利用

Phase1の開発終了後となる2018/Q2より、「Phantom AI 週間ビットコイン予報」へのアクセスがご利用いただけるようになる予定です。

他予測エンジンの利用

Phase4以降、当社のプラットフォーム及びビッグデータを利用した当社外の予測エンジンが利用可能になる可能性があります。

PAI TOKEN ISSUER

トークン発行会社

ファントムエーアイ株式会社及びその子会社について

ファントムエーアイ社は「Phantom AI週間ビットコイン予報」を始めとした予測技術の開発とプラットフォーム普及を目的として設立された会社になります。当社を一つのベンチマークとして多くの予測エンジンをトークン保有の皆様にお届け出来るプラットフォームの普及を目指します。

ファントムエーアイ社（日本法人）としてEthereum等の仮想通貨によるトークン購入の受け付けをいたします。トークン発行会社は設立準備中の子会社（海外法人）を予定しており、クラウドセールス終了後、この子会社より配布をさせていただく予定となっております。

財産ネット株式会社との関係

代表がフィンテック協会理事を務める財産ネット株式会社はAI×Financeをチャンスと捉える第一線のフィンテック企業です。「財産管理をもっと簡単にもっと安全に」「プロの資産運用術をあなたに」をモットーに、一般の方が簡単に自己分析し、次のステップへ踏み出せるようにしたユーザーフレンドリーなサービス「資産の窓口」や、ベテラン営業マンやトレーダーのノウハウを生かした「兜予報」としてメディア展開。

また同時に機関投資家向けには、株価変動情報を蓄積してビッグデータ解析、金融工学をベースとした統計分析、人工知能AIを中心とした最適化学習から、週間株価予報まで現実化し、自然言語認識可能なAIチャットボットも販売しています。

ファントムエーアイ社とは兄弟会社に当たり、株主の一部が重なっておりますが、財産ネット社との間で資本関係はございません。

TEAM

チームメンバー

~ Backed by Ph.D.s / Master of Sciences ~

ファントムエーアイ株式会社 代表取締役

財産ネット株式会社 代表取締役



荻野 調

ハーバード大学修士号、東京大学博士号取得。大学院に通いつつソニー等で500億円規模の事業再編を含む事業立上げを経験。30代は住友系伊藤忠系VCにてシリコンバレーなど数十社に投資、数十社のM&A,IPOを実現。2011年よりグリーにてグローバル事業立上げ、事業開発部や子会社を率いて、提携・投資・Exit・事業立上げ・事業売却等に従事。2015年にAI×Financeの財産ネット株式会社を設立。2017年に「Phantom AI週間ビットコイン予報」の開発を目的としたファントムエーアイ株式会社も設立し現職。フィンテック協会理事。

BlockChain技術



新井 健三

金融系Sierにて主に証券系取引システムや基幹業務システムの構築および運用、システム移管等のITコンサルティング業務に携わったのち、有限責任監査法人トーマツにてFinTech関連アドバイザリー業務および仮想通

貨交換業者の監査業務に従事。業務として複数のブロックチェーンプロダクトにてプロトタイプ開発を行なう傍ら、個人としてNRI Hackathon 2016に参加し東京海上日動火災保険賞および日本生命保険相互会社賞をダブル受賞。

Webコンテンツマネージャー



荒井 宏之

エンジニアとして、PHP/HTML/CSSのマークアップ言語によるWebサイトの制作、SEOエンジニアリング、アクセス解析アナリストを経験した後、IT領域の技術/潮流をベースとしたエスタブリッシュ企業向けのコンサルタントを経て、複数のIT企業にて、Web/アプリ系、O2O系、IPライツ系の新規事業立ち上げに注力。事業開発から経営企画業務まで、事業および会社立ち上げに関する業務を幅広く経験。また、シードフェーズのベンチャー複数社の立ち上げへの参画や経営戦略・組織戦略・PR戦略へのアドバイザー、メンター、複数のアクセラレーションプログラムのメンターも手がける。

コーディネーター



久保 泰一郎

早稲田大学大学院在学中にWebメディア・アプリ開発などを行う傍ら、公認会計士試験合格。大学院卒業と共に有限責任監査法人トーマツ入社後、株式上場支援、内部統制構築支援、監査業務に従事。2015年株式会社セレスに入社。主にビットコイン・ブロックチェーン企業への投資、東証一部市場への指定替え、ビットコインを利用した新規事業、内部統制構築運用、有価証券報告書作成などに従事。2017年アジャストアドバ

イザリー株式会社創業。ICO支援、株式上場支援、ファイナンス支援、仮想通貨事業の監査ツールの開発など行っている。

ブロックチェーン会計士



柿澤 仁

みずほ銀行を経て有限責任監査法人トーマツ入社後、主に株式上場準備監査及び内部統制構築支援に従事し、15社以上のIPOに携わる。2015年よりデロイトトーマツベンチャーサポートのFinTechチームに参画し、“ブロックチェーン会計士”として活動。ICOに関するセミナー開催・講演活動の他、ブロックチェーンに関する実証実験のコンサルティング、複数の仮想通貨取引所の監査の営業、リスク評価及び監査手続きに関するアドバイス、社内の体制整備にも尽力。グローバルファームへの情報発信も実施。

財産ネット 市場調査部長



藤本 誠之

「相場の福の神」と呼ばれるマーケットアナリスト。

年間200社を超える上場企業経営者とのミーティングを行い、個人投資家に真の成長企業を紹介している。”
「まいど！」のあいさつ、独特の明るい語り口で人気。日興証券、マネックス証券、カブドットコム証券、SBI証券などを経て、現在は、財産ネット株式会社の企業調査部長。ラジオNIKKEIで3本の看板番組を持ち、その他テレビ出演、新聞・雑誌への寄稿も多数。日本証券アナリスト協会検定会員、ITストラテジストAll About株式ガイド。

財産ネット 技術部長



高橋 正

富士ソフトABCを経てユニバーサルメディアネットワーク社を設立。財産ネットでは「資産の窓口」などのWeb系アプリケーションの開発を指揮

財産ネット アカデミックアドバイザー



三浦 良造

米国カリフォルニア州立大学バークレー校大学院博士課程修了、統計学Ph.D取得。一橋大学大学院国際企業戦略研究科 教授退官後、名誉教授。2001～2005年に日本金融・証券計量・工学学会会長を務めた。

リーガルアドバイザー



河合 健

1988年京都大学法学部（法学士）卒業。大手金融機関においてデリバティブ取引等の市場業務に約15年間従事。その後アンダーソン・毛利・友常法律事務所にてフィンテック企業及び既存金融機関に対してフィンテックに関連する各種のリーガルアドバイスを行う。仮想通貨の自主規制団体のリーガルアドバイザーを務めるほか、内外の公的機関等への法的及び政策アドバイスにも積極的に取り組んでいる。



福井 崇人

2008年上智大学法科大学院修了。外資系法律事務所での約5年間の勤務を経て、金融庁監督局において、貸金業法及び資金決済法の運用を所管する金融会社室の法務担当を2年半にわたり担当。その間、仮想通貨交換業に係る事務ガイドラインの策定に関与した他、貸金業者、資金移動業者、前払式支払手段発行者等の監督業務に従事。2017年よりアンダーソン・毛利・友常法律事務所にて勤務を開始し、仮想通貨交換業者等のFINTECH企業や金融機関へのリーガル面でのアドバイスを提供している。

その他十数名の金融工学、統計学、数学、人工知能等を専攻するインターンや学生等がプロジェクトをサポートしております。

IMPORTANT NOTICE

重要事項

概要

ファントムイーアイ株式会社は、仮想通貨取引に関する高精度の予測エンジンである「Phantom AI週間ビットコイン予報」を開発・提供することを目的として、トークンセールにおいてPAIトークンの販売を実施いたします。PAIトークンを一定数量以上保有することにより、完成後の「Phantom AI週間ビットコイン予報」を利用することができるようになります。

PAIトークンは、いかなる国又は地域においても有価証券として取り扱われることを想定しておりません。また、このホワイトペーパーは、いかなる国又は地域においても、投資の勧誘に当たらず、いかなる方法によっても有価証券の募集に当たるものではありません。

PAIトークンの購入を検討されている個人や、企業ないし組織等の皆様は、PAIトークン購入に関するリスク、コスト、デメリット又はベネフィット等を十分にご検討いただき、必要に応じて、自己の責任において、これらの点について専門家のアドバイスを受けてください。また、このホワイトペーパーに記載されたPAIトークンの購入に関するリスク及びその他のリスクを許容できない場合、又は理解できない場合は、PAIトークンの購入を控えてください。

また、いったんPAIトークンを購入すると、購入したPAIトークンの対価は返還できませんので、その点にご注意ください。

PAIトークンの購入者

PAIトークン又は類似する暗号トークンの購入が禁止されている又は法令に違反すると見なされる国の国籍保有者、又はかかる国もしくは州の居住者は、トークンセールにおいてPAIトークンを購入することができません。特に、アメリカ合衆国又は中華人民共和国の国籍保有者又は居住者は、トークンセールにおいてPAIトークンを購入することができません。

トークンセールにおいては、暗号トークンの利用法やその複雑な性質、及びブロックチェーン技術に基づいたソフトウェアシステム等について、十分な経験及び理解を有している方のみが、PAIトークンを購入することができます。当社及び当社の役員・従業員等並びに財産ネット社及び財産ネット社の役員・従業員等は、トークンセールにおけるPAIトークン購入者の行為等によって発生した、PAIトークン、他の暗号トークン、仮想通貨又は法定通貨に関するいかなる損失についても責任を負いません。これらの分野について、十分な必要な経験や知識を有していない方は、PAIトークンの購入又はトークンセールへの参加は控えてください。

リスク

PAIトークンの購入には、リスクが伴います。PAIトークンの購入希望者は、購入前に、以下に挙げるリスクを十分に検討し、各種専門家に相談するなどして、自己の責任においてPAIトークンの購入を行うか否か決定してください。

1. プロジェクト開発に関するリスク

「Phantom AI週間ビットコイン予報」は、開発途中のプログラムです。そのため、開発に失敗する可能性や、開発が完了したものの予測の精度が期待に届かない可能性があります。

2. 倒産リスク

当社は、他の暗号トークン発行体と同様、将来的な経営悪化によって倒産に陥ったり、清算したりする可能性があります。PAIトークンは、株式その他の有価証券ではなく、当社が倒産・清算等した場合、PAIトークンの所有者について、残余財産の分配はありません。

3. サービス継続に関するリスク

当社又は財産ネット社が清算等した場合、PAIトークンによって利用できるサービスの提供に係る事業が第三者に売却される可能性があります。その場合、発行済みのPAIトークンによって「Phantom AI週間ビットコイン予報」のプログラムが利用できなくなるリスクがあります。

4. バグ発生のリスク

PAIトークンには、バグが発生する可能性があります。本トークンは将来的なバグ発見を想定し、スマートコントラクトの書き換えが可能となるように作られています。

しかしながら将来的なハッキング等にて、PAIトークンの適切な取り扱いが困難になると判断される場合、当社の判断にてハードフォークを行う可能性があります。

5. Ethereum (イーサリアム) のブロックチェーンの誤作動等のリスク

PAIトークンは、Ethereum (「イーサリアム」) のブロックチェーンによって販売されます。そのため、イーサリアム・プロトコルの誤作動や予期せぬ機能によって、PAIトークンの移転又は保有に影響が生じる可能性があります。このような影響はPAIトークンにとってマイナスの影響を及ぼす可能性があります。

免責等

当社及び当社の役員・従業員等並びに財産ネット社及び財産ネット社の役員・従業員等は、皆様がこのホワイトペーパーの記載を信頼したことに起因して又はそれに関連して被ったいかなる間接損害、特別損害、付随的損害、結果的損害その他の損害について責任を負いません (不法行為責任、契約責任その他法的性質を問いません。)。

当社及び財産ネット社は、開発途中の「Phantom AI週間ビットコイン予報」が完成することについていかなる保証もせず、PAIトークンの購入者はこの点を認識しています。PAIトークンの購入者は、当社が「Phantom AI週間ビットコイン予報」が完成せず、利用に供されないことによって生じる損失・損害についていかなる責任を負わないことを認識しています。

また「Phantom AI週間ビットコイン予報」が完成した場合、これが他のツールやインジケータよりも優れていることを保証するものではありません。また「Phantom AI週間ビットコイン予報」の出力結果を用いて利用者の取引を推奨するものではありません。他のインジケータ (移動平均線、RSI、RCI、VIX等) と同様に、取引の参考となる情報の一つとしてご確認ください。

世界各国において、規制当局が暗号トークンに関連したビジネスを注意深く監視しています。PAIトークンの購入者は、いかなる国又は地域の法令等に基づいて、当社及び財産ネット社のビジネスモデル又は「Phantom AI週間ビットコイン予報」等が変更される可能性があること、かかる変更によって生じた損失・損害について当社又は当社の役員・従業員等は責任を負わないことを認識しています。

当社及び財産ネット社は、このホワイトペーパーに記載された情報の真実性・完結性を表明保証するものではなく、いかなる者に対しても、いかなる表明保証及び免責を与えるものではありません。

購入者による表明保証

PAIトークンの購入に参加することによって、購入者は、以下の点を表明保証します。

- (1) 購入者が、居住する国又は地域の法令に基づいて、PAIトークンを購入する完全な能力を有していること
- (2) 購入者が、PAIトークンの購入が自身にとって適切なものであると判断することについて責任を負うこと
- (3) 購入者は、PAIトークンの購入又はトークンセールへの参加を希望する他者の代理人ではないこと
- (4) 購入者が、PAIトークンの購入に係るリスク、コスト、その他のデメリット等を十分に検討し、トークンセールにおいてそれらを理解していること
- (5) 購入者が、PAIトークンの購入に関して、投機的な目的で行動をしていないこと
- (6) 購入者が、あらゆる国又は地域において、いかなる形態によっても、PAIトークンは有価証券に当たらないことに同意・理解していること
- (7) 購入者が、このホワイトペーパーは、いかなる種類の目論見書又は募集書類にも当たらず、購入者の居住する国又は地域において有価証券の募集に当たるものではなく、有価証券に係る投資の勧誘に当たらないことを同意・理解していること
- (8) 購入者が、トークンセールにおいてPAIトークンが以下のいずれにも当たらず又はそのように解釈されず、分類されず、又は扱われないことを同意・理解していること：
 - (i) 仮想通貨又は法定通貨
 - (ii) 当社が発行する株式又は債券
 - (iii) 上記(ii)の株式又は債券に係る権利、オプション又はデリバティブ
 - (iv) 投資スキーム持分
 - (v) 信託持分
 - (vi) 上記(v)の信託持分に係るデリバティブ
- (9) 購入者が、仮想通貨の運用、機能、利用法、貯蓄、移転のメカニズム及び他の重要な特徴、ブロックチェーンに基づいたソフトウェアシステム、仮想通貨ウォレット又は他のトークン貯蓄メカニズム、ブロックチェーン技術及びスマートコントラクト技術について十分な理解を有していること

(10) 購入者が、PAIトークンの購入にあたって、当社及び当社の事業・運営に関連するリスクを十分に認識・理解していること

(11) 購入者が、当社が、購入者がこのホワイトペーパーの記載を信頼したことに起因して又はそれに関連して被ったいかなる間接損害、特別損害、付随的損害、結果的損害その他の損害について責任を負わない（不法行為責任、契約責任その他法的性質を問わない）ことを十分に同意・理解していること

(12) 上記(1)ないし(11)の全ての表明保証が、購入者がホワイトペーパー記載の情報に接したときから、真実、完結及び正確であり、誤解を招くものではないこと

トークンセールの内容についてのアップデート

当社は、トークンセールの期間中において、このホワイトペーパーの一部及び条件を、当社の裁量により、変更、改訂、追加又は削除することができます。購入者は、PAIトークンを購入することにより、かかる変更等を許容しております。このホワイトペーパーのいずれかの部分や条件について異議がある場合は、PAIトークンの購入を控えてください。

マーケット情報・産業情報

このホワイトペーパーには、マーケット情報や産業情報のほか、当社内の調査・報告・研究、マーケットリサーチや公表情報等によって得られた予測が含まれています。かかる調査等に含まれている情報の正確性や完結性は保証されているものではなく、当社はかかる情報が正確であり、かつ完結しているかについて独自の調査・検証は行っておりません。当社及び当社の役員・従業員等並びに財産ネット社及び財産ネット社の役員・従業員等はかかる情報の正確性・完結性等について、いかなる表明保証も行いません。